

報 告

うでまくり

一般社団法人

福島県女性経営者プラザ

FJPも新しいステージへ

福島県女性経営者プラザ

会長 上 石 美代子



今年の冬はあつという間に過ぎ、春がとも早く訪れました。私が小学校低学年の頃、冬休みは東京の伯母さんの家に遊びに行くことが良くありました。東京も、収穫の終わった畑には霜柱が出来ていて足で踏むとザクザクと音がして壊れ、風は冷たかったのですが、とても天気が良く、太陽が眩しかった記憶があります。冬休みは、地吹雪が多い郡山を出発して過ごす東京の地は別世界で、郡山もこのような天気に

ならないかなと小さいながらに思っておりまして。何と今年の郡山は太陽が眩しい晴れの日が多くありました。暖かいのは有難いけれど、地球温暖化の影響だと思ふと喜んではかりはいられませんね。温室効果ガスが増え続け地球温暖化による異常気象や動物、植物への影響等を考えると、私たちが身近で出来ることを意識していきたいと思ひます。使っていない部屋やつけっぱなしのテレビを消す。冷暖房の調節をする。自家用車になるべく乗らない。(これは、田舎では無理ですね。) など、小さいエコが大きな結果を生むことを願ひます。

さて、FJPの女子学生懸賞作文事業も5年目を迎え、1月12日無事に表彰式を終了致しました。審査員の皆

◆ FJPの目的 ◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

様、協賛会社様、そして会員の皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。今まで受賞された方は少しずつ夢を叶えて、活躍されております。私たちの事業が本当に女子学生の皆様のお役に立っているかどうか葛藤しておりますが、表彰式で受賞者の皆様にお会いして、改めてこの事業の必要性を認識し、女子学生の皆様からエネルギーを戴いた次第です。第6回に向けて内容を確認しながらこの事業を引き継いで行きたいと思ひます。引き続きご支援をお願い申し上げます。

FJPも発足して23年目の春を迎えました。私たちは経営者としての自己研鑽、資質向上を図りながら、異業種交流や親睦・連帯を深め女性経営者が活躍しやすい経営風土の創造と実現を目指しており、今まで確実に実績を積み上げて成長して参りました。今年度のテーマは「FJPも新しいステージへ」と致しました。会員も増え、なお一層若々しく元気に例会を開催してい

● うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気のよい朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！

る今、改めてFJPの発足意義を意識して、また新しいステージへ成長して行きたいと思ひます。

今年度も和気あいあい、楽しく元気においし充実した1年にいたしましょう。



2019年1月12日：第5回女子学生懸賞作文発表会にて

人生はチャレンジだ！

——私は女性経営者になってこんな「しごと」をやってみた！

第5回女子学生懸賞作文発表・表彰式

◆2019年1月12日(日) 13時30分

◆福島市ホテル辰巳屋 (8階瑞雲の間)

第5回目を迎えた女子学生作文募集は、応募総数31編の中から1次審査通過作品15編、さらに審査委員による公開審査によって、金賞1名、銀賞2名、奨励賞5名、及び国際賞1名が選ばれた。尚、国際賞は毎年福島に留学し、学んでいる外国人からの作品を称えるために今年初めて設けられた。

作品発表会&表彰式は、今年1月12日ホテル辰巳屋において、福島教育委員会教育長鈴木淳一様、福島県商工労働部長橋本明良様をお迎えし、盛大に開催された。共催・福島民報社、後援・福島教育委員会、特別協賛・福島県中小企業団体中央会、協賛企業・15社。



表彰された学生さんたち（前列）後列は審査員と来賓

お祝いメッセージ

福島県教育長

鈴木淳一様



これまで受賞された女子学生の皆さんが頼もしく活躍されているという状況報告を伺い、とても嬉しい。福

島県政が抱えている課題を自らの問題として受け止め解決したいという強い思いが書かれている応募作品が多く、毎年心を動かされる。社会が急激に変化する中で、大震災を経験した福島だから生まれる強い思いというものがある。福島をフィールドに課題解決型の学びを通して、これからも子どもたちの教育に力をいれていきたい。

※

福島県商工労働部長

橋本明良様



女性の活躍を期待して、知事のメッセージ「挑戦とかきくけこ」を贈りたい。「か」は感謝、「き」は希望、「く」はクライシス（危機管理）、「け」は健康、「こ」はコラボレーション。知事の決意が表現されたもので、職員一丸となつて福島復興に取り組んでいる。しかし、希望の光が見えてきた一方、課題も多く、まだまだ有事の状況が続いているのも事実。女性活躍推進も叫ばれている今日、受賞者の皆さんにはこれからキャリアアップを目指し、新たなチャレンジに取り組んでほしい。

総評

審査委員長 千葉悦子

福島大学副学長
行政政策学類教授
福島県男女共生センター館長



FJP 20周年事業として始まった女子学生作文募集は5回目を迎えた。応募総数は昨年を上回り31編が寄せられた。最終的に9作品が選ばれたが、どの作品も甲乙つけがたい作品ばかりであった。

より困難な課題に向かつて

応募した学生の内訳を見ると、大学、短大、専門学校と広範囲にわたる。留学生からの応募や理系で学ぶ学生からの応募が目立ち、新たな動きが出てきたのが今年の特徴ともいえる。また作品に共通して、福島県において、より困難な課題に向かつて仕事をしてみよう、起業してみようという意気込みが感じられた。健康長寿は県の課題になっている。金賞受賞の黒澤さんの作品は健康長寿福島をつくるという内容であった。若い世代らしい発想でレストラン併設の薬局を提案した。実現へのロードマップもしっかりしており、実際、実現する可能性が高いという点で高く評価され、

金賞に輝いた。

■自分の専門を基礎に

また、自分の学んでいる専門性からアプローチした作品が多かった。しかも、自分の専門を基礎にしながら、それに拘らずより広げて考えているという姿勢に感動した。福島工業高等学校の高野さんは、外国人労働をヒントに事業を考えた作品である。また、クラウドファンディングを利用するプランや農業を身近なものにしたいという作品など、狭い領域を超えて挑戦していることとする大変頼もしい作品が多かった。

■今年初めて設けた国際賞

大震災で福島は傷ついたが、過ちを繰り返さないための高等教育に力をいれている福島大学に留学しているハンガリー出身の学生が受賞した。福島をもっと知りたいという思いから、国際交流の仕事を考えてた作品である。再び福島に戻って活躍するという目標は頼もしく、期待しての特別賞である。

■夢はまだまだバラ色

共通して現実味を伴う夢が描かれているが、その夢は、まだまだバラ色の部分が多い。これから実現していくには、先輩などいろいろな知恵をもらう必要がある。人間としての成長も必要である。あきらめないで前に進んで

ほしいというのが、審査員共通の願いである。

■審査員

千葉悦子（福島大学・福島男女共生センター館長）、高橋雅行（福島民報社代表取締役）、熊本俊博（福島県中小企業団体中央会副会長兼専務理事）、佐川八重子（東京産業人クラブ女性部会会長）、上石美代子（FJP会長） 三田公美子（FJP監事）

■審査員の方からひと言



福島民報社代表取締役
高橋雅行 様

第5回まで継続できたことに感謝したい。受賞者の皆さんにはそれぞれの道で頑張してほしい。



東京産業人クラブ女性部会長
佐川八重子 様

今、小学生のプロ棋士の誕生で囲碁界がおおいに湧いている。受賞された女子学生の皆さんも、経験のない「経営者」に果敢に挑戦している。夢を燃焼させていて素晴らしい。

■各賞の受賞者及び受賞作品

敬称略

区分	名 前	学 校 名	タイトル
金 賞	黒 澤 梨 紗	奥羽大学薬学部薬学科	健康長寿県福島をつくる
銀 賞	高 野 彩 香	岩手大学総合科学研究科修士課程理工学専攻	発達障害者の『自立』を考える —インダストリアルデザイナーへの夢—
銀 賞	白 根 楓 子	福島医療専門学校柔整科	生涯治療家、それが私の夢
奨励賞	嘉 齊 滢	福島工業高等学校専攻科 ビジネスコミュニケーション学専攻 ビジネスコミュニケーション学コース	日本の誇るべき伝統文化で 世界の意識改革をしたい
奨励賞	佐 藤 文 音	青山学院大学理工学部 物理・数理学科	農業を人々の身近へ
奨励賞	有 本 早 希	白鷗大学経営学部経営学科	農業体験カフェで新たな魅力発見へ
奨励賞	松 浦 有 里 子	福島県農業総合センター 農業短期大学校 農業経営学部畜産経営学科	愛ある農業者へ
奨励賞	高 野 瑠 美 茄	福島工業高等専門学校 コミュニケーション情報学科	地元企業の発展を見据えた身近なビジネス
国際賞	メーサーロシュ・フルジナ	福島大学人間発達文化学類	国際交流で若者が夢とチャンスを持つ 仕事をしたい
応募総数 31 編 受賞者9名（金賞1名、銀賞2名、奨励賞5名、国際賞1名）			

受賞者から喜びの言葉

◆金賞受賞 奥羽大学

黒澤梨紗さん

自分の思っていることを書きました。くじけそうになることもあるがこの賞にまけないように頑張りたい。

◆銀賞受賞 岩手大学

高野彩香さん

大人になるまでの支援と、大人になってからの支援をしていきたいと思っている。最終目標は「発達障害者の自立」です。

◆銀賞受賞

福島医療専門学校

白根楓子さん

自営業の母に教えてもらった健康寿命というキーワードを、生涯治療家として大事にしていきたい。

◆奨励賞の受賞者の方々

青山学院大学——佐藤文音さん

一度目の応募の時は、大学で学んでいることと福島とのつながりが上手く書けなかった。今回「農業」を通して地域に貢献できると思った。受賞できて嬉しい。

白鷗大学——有本早希さん

クラウドファンディングという新しい方法で新しいカフェをつくりたい。

受賞者の発表!!



発表する受賞者



▼福島県農業総合センター農業短期大学校

——松浦有里子さん

愛ある農業者になることが夢。必ず実現したい。

◆国際賞受賞

福島大学 メーサロシユ・フルジナさん
ハンガリーに帰国したフルジナさんの代理としてフルバン・リディアさんとネディブ・アゴータさんが出席。紺野副会長（写真左）の問いかけに、「私たちも今年はずいぶん経営者になる夢を書いてみたい」……と。



過去の受賞者の今……

▼グエン・ティ・ブエット・フォンさん

（当時・郡山情報ビジネス公務員専門学校）
（第2回銀賞・さくら賞受賞）

『日本とベトナムの架け橋に』

在学中に日商簿記2級を取得し、卒業後郡山市の会計事務所に勤務。ベトナムで日本からの進出企業を現地で直接支援したいという事務所への期待に応え活躍中。



佐川氏(右)とグエンさん

▼海野麻里さん（第2回奨励賞受賞）

（当時・東京福祉大学通信教育課程）

『若者を中心に性教育に取り組む』

現在29歳の海野さん。看護師、認定心理士、中学・高校教諭（保険）の資格をもち、講師として若者を中心に性教育活動普及に取り組んでいる。学校では学べない性の相談や指導をしたいと、夢実現へ、確実にキャリアを蓄積している。



▼平栗千寛さん（第4回銀賞受賞）

（当時・日本菓子専門学校）

『伝統を守りつつ新しい和菓子』

郡山市の老舗丹波家羊羹本舗の後継者として、「伝統を守りながら、新しい味をつくりたい」という夢が現実になり、昨春秋、うすい百貨店に「ちひろ」と名付けたお店を出店。江戸時代から継いできた和菓子づくり、若者らしい感性で挑んでいる。ちひろの和菓子は、第5回受賞式で茶菓子として配られた。



発表する作品を銀賞する平栗さん



10月定例会

2018年10月9日(火)
場所…宴庭・燦(郡山市)

「芸能界、入ってみたら、

「こんなトコ」

ある小さな芸能事務所の活動記

講師・(株)オフィスまめかな

代表取締役 上野佳奈氏

大学の卒業論文を書くため、図書館を訪れた際に見た映像の中で、三遊亭円生の落語に惚れ込み、三遊亭楽太郎(現・六代目円楽)の現場でマネージャーのアルバイトを始めた。その後正式に星企画に入社し、円楽の襲名興行の総指揮を執ることになった。これをきっかけに、落語の世界の様々な仕事を経験し、20代は魔法の扉が次々と開くように幸運続きであった。



上野氏は、実はお笑いコンビ「母心」オカンの奥様です。

30歳で独立し、会社を設立した。しかし、経営者になった途端に、従業員のトラブルや芸人の騒動に巻き込まれるなど困難な事態に直面する。スケジュールのダブルブッキングも重なり、会社存続の危機に見舞われた。トラブルを回避するために、契約書をきちんと作成し取り交わすという基本的なことから整備し、顧問弁護士も雇い、会社としての機能の拡充を目指した。

11月移動例会

2018年11月13日(火)

場所…カルチエド・シャンブリアン(いわき市)

会員に聞く(気ままにトーク)

(進行…上石会長)

◆伊藤江梨さん(郡山市)

会計事務所で働くより自分で起業してしまおうと、2017年4月に開業。勢いで始めたものの、自分の力不足を感じながらも、お客様に助けられて今があります。趣味はスキューバダイビング。FJPに入会してバリバリ仕事をする女性をみて、気合が入っています。今後1年半で会社の基盤を固めていくつもり。

◆中村須美子さん(郡山市)

15年前、主人と一人で始めた会社(株

しかし、それらは何とか乗り越えてきたが、最も心を痛めたことは、従業員やスタッフとの関わり方である。会社の思いや目指していることが伝わらず、ズレが生じてしまう。日々対話を重ねながら改善に努めた。

将来は、地域や落語界のために貢献できるような会社になりたい、と夢を膨らませ奮闘中である。

(文・広報交流委員会 佐藤君榮)



伊藤江梨さん
中村須美子さん

式会社中村建運)で、自分が代表取締役をやっている。仕事は大変だが、面白い。今後、県内「円」の営業をめざしていく。趣味は特にこれというものはないが、読書や手芸は好き。でも、時間がない。韓流ドラマDVDにもハマっている。

リレーエッセー①

もっと笑って、ワクワクすること共有したい…

佐藤直美(広報交流委員会)

(有)セスト取締役



先日、FJPの定例会の食事会の時、ある会員から「そういえば、

この中に花粉症の人が見たら面白い」というお話がありました。見渡すと、食事中ではありましたがマスクをしている姿が誰一人いませんでした。食事中も、楽しいお話が次から次へと繰り広げられ、笑い声であふれています。笑い声といえば、元吉本興業専務の竹中功さんの講演会で、笑いは免疫力を高めると一般的に知られていますが、ワクワクすることを考えるだけでも免疫力が高まるという研究結果があるとか…。さらに、FJPの皆様はともにおしゃれ。新会員「モードサロンブーケ」杉原会員の店舗は「ほんもの」にこだわった素敵なお店でした。これからも、会員の皆様と笑って、ワクワクすることを共有していきたいと思っています。

12月クリスマス例会

2018年12月11日(火)
場所…ドリーム(本松市)

トランペットに感動！

本宮市の「ドリーム」は織井会員のお店で、毎年恒例の企画クリスマス例会を開催している。今年も、心づくしの美味しい料理と美酒に酔いしれながら、楽しい時間と会員親睦を深めることができた。しかも織井会員からのサプライズが！なんと、トランペット奏者のZoby(ノビー)こと長屋伸浩さんをお呼びしてくれていたのです。「マ



イ・ウェイ」や「さくら」などのトランペットの響きが心に染みて。一人ひとりのこの1年の頑張りを癒してくれるようでした。アンコールにも快く応じてくれて、素晴らしいライブとなりました。

お楽しみのプレゼント交換もワクワク。渡された会員に喜んでもらおうと、思いを込めて選んできた品々に、みんな嬉しそうでした。

会員同士が素敵な時間を過ごせる貴重な夕べに感謝して、幸せの余韻を味わいながら家路につきました。

(文・広報交流委員会佐藤君榮)

2019年2月定例会

2019年2月12日(火)
場所…ネーブルシティもとみや

花の本宮く歴史よもやま話

講師…遠藤教之氏

遠藤先生手作りのB4版資料に沿って、奥州街道髓一といわれた「本宮」について学ぶ。本宮市が安達郡本宮町と白沢村が合併して市制となつたのは2007年。福島県のほぼ中央に位置する世帯数1万強の小さな市である。今も安達太良山を背景に、阿武隈川と対岸に田園丘陵地帯が広がる。江戸時代に在郷町が形成され、宿場町として栄えた。会津・相馬・三春への分岐点として、流通経済を担う物資と情報の集散地だったことを知る。井原西鶴の名所案内



講師プロフィール…1947年、青森県弘前市生まれ、福島県郡山市育ち。学習院大学法学部卒業後、福島県立浪江・福島西・白河の高校学校長を歴任し、現在、福島県の歴史を学ぶ講師等を務めている。著書に「守山藩 水戸藩御連枝、初代藩主は家康のひ孫松平頼貞。阿武隈山麓・鹿島灘、遠藤領土の多様な風土の物語。シリーズ藩物語」。

「目玉録」にも登場する程全国的に知られた町だったというのも興味深い。

また、安積疎水を考案したのが、地元出身の農民で漢学を極めた経世家「渡邊閑哉」であったことを知る。自ら現地調査を行い、明治政府が進めた安積疎水工事計画の原案を作った。安積疎水の開削ではオランダのファン・ドー



意外と知らなかった本宮の歴史。会員も真剣そのもの！



元知事佐藤栄佐久さん(左)は、商家として栄えた佐藤家が祖先。いにしえから本宮の町づくりに貢献してきた遺伝子が元知事誕生へ継がれていた!

ルンが称賛されるが、渡邊閑哉の先見性がスゴイことを知って驚いた。

このほか、遠藤先生は様々な文献を研究し、現存する数々の神社や古墳を実際の地に検証している。「岩角山の岩肌にある彫刻や毘沙門堂の彫刻など、どれをみても素晴らしい。土地の人々が文化の跡を残す経済力と文化意識を持ち合わせていたことに感動する」と遠藤先生は語る。

本宮と交差した多様な歴史的価値を理解することができると話であった。先人の血が本町の根底に流れていることを思い、今日の困難な福島を変えていく潜在力が、本宮にはあるのだと勇気がわいてきた。私たち福島県経営者こそ、自信と誇りを武器に地域の輝く未来を描いてみるのが大事なのだと、歴史から気づかされた講話であった。

(文・広報交流委員会 会田和子)

新会員ご紹介

熱海運送株式会社取締役副社長

佐藤 友美さん

(総務委員会)

皆様との出会いに感謝



この度、FJPにお誘い頂いた上石会長には、感謝申し上げます。会

社の跡継ぎとして、子育てをしながら、経理の担当をしてきましたが、次期社長という立場にあり、今後は様々な方々と交流を深め、視野を広げていきたいと思っていました。そんな中まさに私が望んでいた「女性経営者方」の集まりにお誘い頂いたことを大変嬉しく思い、職種も年齢層も様々な皆様とお話できる機会を今後にも楽しみにしております。FJPのモットー『自分を磨き、よい仲間を増やし、時代の波をキャッチして行きます』という考えに大変共感でき

新入会員募集!

来に向かって一緒に夢を語りませんか

トライ&チャレンジ精神の豊かな仲間たちが、あなたをお待ちしています。



FJP

福島県女性経営者プラザ
963-0202 郡山市柏山町3
TEL 024-961-8822
http://fjp-net.com/

ました。今後も女性経営者として、女性性がもつと働きやすい環境作りを目指して頑張っていきたいと考えております。宜しくお願い致します。

専門はBeautyセラピスト

変えられるのは自分と未来!



群馬で生まれ、縁あつて郡山の婦人服専門店二代目に嫁ぎ28年。店長として時代の気分とその人らしさを大事にコーディネート提案してまいりました。娘2人を育てつつ店と家を往復する毎日でしたが、昨年、山本欣子さんと出会いました。あふれ出るオーラと包容力、「変えられるのは自分と未来!」という力強い言葉に後押しされ入会。3月の例会に参加して、諸先輩

方「福島県のため、女性のために」

きることは何?」と意見を戦わせる姿に大いに刺激を受けました。頭を柔らかくして学び行動する自分になりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

フラ・ラポート代表

山田 より子さん
(事業委員会)

お客様のハッピーに貢献したい



仕事は郡山市の自宅マンションでプライベートサロンをしています。プラ

ナビューティ[al]a Rapportと申します。プララーナは呼吸、Rapportは架け橋という意味です。サロンはお客様ご自身の時間を大切にする所、自分の心と身体を浄化しメンテナンスして新たなエネルギーを注ぎ込む場所です。美と健康と癒しのサービスと商品を通してお客様のハッピーに貢献出来る架け橋になればと思っています。

FJP会員の皆様の様に、自立した意思と行動力で経営を学び収益を出せるようになりたいと思います。ご紹介下さった山本欣子さん、また受け入れて頂いたFJP会員の皆様に心から感謝申し上げます。

3月まとめ例会

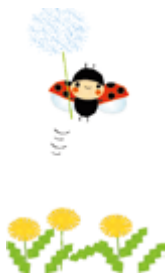
2019年3月12日(火)
場所…茶寮おりおり(福島市)

3月のまとめ例会は、各委員会ごとに1年間のまとめを話し合い、次年度に向けての計画、目標などを話し合い、その結果を報告しました。

◆ **【総務委員会】** 全員で総務の事業(例会受付、司会、議事録等)に携わるよう実施してきた。次年度も引き続き行っていく。

◆ **【事業委員会】** 作文事業を次年度も継続で決定。FJPらしさを出して行くのが重要。募集に関しては十分討議していく。

◆ **【交流広報委員会】** 講演会の講師には、やはり女性経営者を。他県との交流や身近なところで成功している女性を招いて話を聞く…など。会員から事業紹介を聞くのも良い。4月から3名の新入会員が入会。今後も幅広く募集をしていく。



各委員会 新年度に向けて

●総務委員会

委員長 古川 節子

新年度になると元号が変わります。これは、私たち個人も、FJPも、新しい時代とともに変わるチャンスになるかもしれません。新しいステージへ：FJP活動では新しさを学び、実践していく力を養っていききたいものです。総務委員会はそれらを鑑み、より良い委員会運営を目指しながら、さらに縁の下の力持ちとしてFJPを支える力をつけて参りたいと思います。会員皆様のご協力をよろしくお願い致します。



2019.3. 総務委員会開催 (ドリーム)

ふくしまの自慢 ⑦

古川節子

古関裕而記念館(福島市)

2020年の春から始まるNHK朝の連続テレビ小説に、福島市出身の作曲家・古関裕而と妻の金子さんをモデルにした「エール」が決定しました。

古関裕而は、高校野球で流れる「栄冠は君に輝く」、東京オリンピックの開会式で演奏した「オリンピックマーチ」、「巨人軍の歌」「阪神タイガースの歌」のほか、「君の名は」「さくらんぼ大将」「ひめゆりの塔」「モスラ」等の映画音楽など様々なジャンルの作曲を手掛け、その数5000曲あまり。福島県内の小中高校や企業でも古関裕而作曲の校歌、社歌は多い。古関裕而記念館は福島市入江町の音楽堂敷地内にあり、童謡「とんがり帽子」をイメージした外観、朝夕流れる古関メロディが人々の心を和ませている。1988年11月開館。



古関裕而氏



●事業委員会

委員長 瀬戸 孝子

平成が終わります。私も原点に立ち返って、自分の経営を再考したいと思う。新年度は経営の原点を学ぶ会合や楽しく交流する機会を皆さんと一緒に作っていききたい。

●交流広報委員会

委員長 会田 和子

元号も変わり、新たな時代へ。素敵な新会員3名を仲間に加え、福島の桜と同じ魅力満開です。未来を語りながら信頼に支えられた活動を推進していきます。

■編集後記

三田監事と一緒に「ほめる達人」の講話を聴いた。びっくりするほど成長し続けている人は、共通して3D(でも・だって・どうせ)NGで、褒める言葉を沢山もっているそうだ。自分を褒める言葉を書き出すワークで、三田監事は5分間で30以上挙げ。参加者の中で断然トップでした。三田監事は、組織も悩みごとまで、ほめて解決することが出来る人「ほめ達」だったのです。

(会田和子)

